

〔五常訓〕五信

朋友に交るには、もとより愛敬を用ゆべし、然れども信なければ、愛敬も偽より出て、誠の愛敬にあらず、顔色をやはらげ、容貌をうやくしくするも、いつはりかざれるは、愛敬とすべからず、

〔伊勢平藏家訓〕五倫の事

一朋友の法は、友だちの交りの法なり、友だちとつきあふには、相互に眞實の心を専らとして、たのもしく交るべし、友達の心得違有てわろきあらば、異見をいひ、難儀なる事をばすくひたすけ、何事も眞實にして、偽りなく、だしぬかずたのもしくするを、朋友の信といふなり、

一友だちは相互に遠慮なく、わろきよしをいひて、異見をして、おしき事を改むべし、是相たがひに友だちの慈悲なり、是友だちにつきあふ法なり、

一友だちの中、眞實の心なく、異見いひても却て腹をたちたのもしからぬ友ならば、次第々々に遠ざかりて、つきあふべからず、これもまた友に交る法なり、

〔花月草紙〕五友に交る道は、いかなる事か心得べきといふに、友はその所長を友とすべし、ふるきこと好むにば、そのことに友とし、武技このむには、それに友とし、歌によむものには、その道に友とずるぞよき、さるに歌とてもこのふりはあしかり、かれにまねび給ふは、ひがことなりなどと、いふにも及ばじ、たゞ交りてこそあるべけれ、古にいふ管鮑の交といへども、このふたりおなじ徳、おなじ心よりしにもあらしかし、よの中に同じこゝろの人といふものは、いとまれなる事なるべし、たゞわが好めるかたに引きいれんとずるもうるさし、このひと、このところは長じぬれど、こゝはいとみじかし、そのみじかきところを、引きのべんとするはいとくるし、さ思ふわれも、またそのみじかきところあるものを、ことに思ふこと、みないさめものせんとするを、かの信と思ふは、たがへりけり、交るがうちにも知己のひとは、いとまれなるものなり、それらよくことば